



全卸連プレゼント「JPBA☆SSSカップ2019」

10月20～21日／東京ポートボウル



注目度大の新設大会は成功裏に幕！

女子は寺下智香が今季2勝目

男子は斉藤祐哉が史上初の兄弟対決を制す

全卸連(全国化粧品日用品卸連合会)とJPBA(日本プロボウリング協会)が共催し、特別協賛のユニ・チャーム(株)をはじめとする全卸連加盟54社ほかの協賛を得て初開催された今大会。「シニアスポーツサポート」という趣旨の下にさまざまな新機軸が打ち出され、平日開催にもかかわらず、会場の東京ポートボウルは2日間とも多数のギャラリーでにぎわった。プロのTV決勝も白熱。大トリの男子優勝決定戦では史上初の兄弟対決が実現して会場を沸かせ、B公認ながら注目度の高かった新設大会は成功裏に幕を閉じた――。

▲史上初の兄弟対決となった男子優勝決定戦は、兄・祐哉(右)が制して昨年のグリコセブンティーンアイス杯以来の通算2勝目を挙げた。優勝ボールはエボナイト・ボルテックス

今大会にはランキング上位の男女プロ各48名と、予選会を勝ち抜いた男女シニアアマ各32名が出場。プロは予選6Gの上位各21名、アマは同3Gで男子20、女子21名の上位者を準々決勝に進出した。

準々決勝はアマ選手のフィナルステージとして、男子プロが女子アマ、女子プロが男子アマとペアを組む混合ダブルス戦(2×3G)として行われ、上位5チームおよび男女各5名の上位選手が表彰対象となった。

上位入賞チームは別表の通り。ちなみに、ダブルス戦には大会ホストアマのBro.KORN氏が開催センター所属の矢野朋代(48期)とペアを組み、推薦枠で出場している(総合37位)。

その後、プロは個人成績上位の男女各12名による準決勝(3G)を経てTV決勝進出者各3名が決定。新設大会の栄えある初代王者を目指してステップラダーのマッチゲームに挑んだ。

女子TV決勝

浅田利奈(48期)と大根谷愛(45期)の対戦となった3位決定戦は、ともに1ミスながらダブル2回、10フレパンチアウトの3位進出・大根谷が213:187で勝ち上がった。浅田はまたしても3位(今季4度目)。悲願の初Vは近くて遠い。

優勝決定戦は、予選から230台のハイアベレージで首位を快

走してきたトップシードの寺下智香(47期)が、スタートからの4連発で早々に主導権を握る。5フレで10ピンをカバーミスして以降はストライクも単発になったが、3位決定戦時から変化したレーンに対応し切れず3ミスの大根谷を最後まで寄せ付けず、216:162で勝利。7月の六甲クイーンズに続く今季2勝目(通算6勝)を挙げた。

男子TV決勝

レフティー3名の対決となった男子のTV決勝。3位決定戦は、3位進出の斉藤祐哉(49期)が2つのスプリットオープンでストライク7発でカバーし、終始右レーン攻略に苦しんだ森本健太(51期)に207:195で勝利。優勝決定戦ではJPBA史上初、トップシードで待つ弟・斉藤琢哉(48期)との兄弟対決が実現することとなった。

予選から240台のアベレージでトップを独走してきた琢哉と、準々決勝で800シリーズを達成して予選9位からジャンプアップ、尻上がりに調子を上げてきた祐哉。割れるか、ストライクのスプラッシュ音を響かせるかの力勝負となった一戦は、6連発スタート、8フレからオールウェーの兄・祐哉に軍配が上



▲予選から一度も首位の座を譲らない完全Vにも「優勝決定戦で10ピンをミスった自分が許せない(苦笑)」と、どこまでも貪欲な寺下。優勝ボールはBWプリズム・ハイブリッド

がった(265:221)。

「コンディション表を見たときから、今回はある程度イケそうな気がしていました。大会で弟と同じボックスで投げることにはよくあるので、兄弟対決といっても特別な意識はなかった。自分のほうが序盤からピン

アクションがよかったので、琢哉が3フレで先にミスったときに優勝を確信しました(笑)」と祐哉。

「どちらかといえばロースコアの競り合いのほうが得意」という男が、派手な打ち合いを制して兄貴の面目を保った。

☆

「とりあえず、無事に終わってホッとしています。B公認でゲーム数が少なかったこともあって、スタートで出遅れたトッププロが軒並み予選落ちしてしまいましたが、男子の優勝決定戦で史上初の兄弟対決が実現したり、女子は寺下智香がすごく強くなっていて、見応えがありました。

協賛社のブースやAINAKNNAのライブがあって、キャプテンサンタさんは全スタッフに白のウインドブレーカーを提供し

てくださった上に、ABSとコラボしてボウリングバッグも作って、これが大人気でした。

みなさんが今までとは違う大会だということに気付いて、また新しい何かが動き始めるきっかけになったと思います」

打ち上げパーティー後、大会プロデューサーの扇一平氏は、達成感に若干疲労感を滲ませた笑顔で、そう大会を総括した。

男子 決勝ステップラダー

斉藤 琢哉	221	優勝
森本 健太	195	
斉藤 祐哉	207	
	265	斉藤 祐哉

女子 決勝ステップラダー

寺下 智香	216	優勝
浅田 梨奈	187	
大根谷 愛	213	
	162	寺下 智香

●プロアマダブルス表彰

順位	チーム名(プロ&アマ)
優勝	斉藤 祐哉(9)&清水貴美子選手(13)
第2位	霜出 佳奈(6)&佐藤 晃一選手(2)
第3位	浅田 利奈(17)&藍原 修一選手(4)
第4位	吉川 朋絵(19)&三井 和之選手(3)
第5位	大根谷 愛(5)&扇 宏一選手(16)

※カッコ内数字は予選順位



▲男女プロ1～3位の入賞選手



▲ダブルス戦の表彰チーム。ちなみに、5位入賞チームの扇宏一選手(右端)は一平氏の実兄

A★LA★CARTE



①②会場入口付近とレストラン内には所狭しと協賛社のブースが並び、各社自慢の商品サンプルが来場者に多数配布された③2日目のTV決勝前には女性ロックユニット・AINAKNNAのミニライブが開催され、大会テーマソング「逆襲プレリウド」ほか5曲を熱唱。キャプテンサンタもノリノリで応援④AINAKNNAの物販ブースではこんな光景も